



# DFM Studio

## DFM Studio

インストールガイド

株式会社エリジョン

2021年 6月

# 目次

1. はじめに	1
1.1. インストール対象製品と実行対象インストーラー	1
1.2. Sentinel RMS License Manager のインストール	3
2. ASFALIS SmartLauncherを利用する場合	4
2.1. ASFALIS SmartLauncherの導入	4
2.2. DFM Studioパラメーターファイルの準備と配置	5
2.2.1. DFM Studioパラメーターファイル利用の際の注意点	9
2.3. DFM Studio Inspectorの導入	10
2.3.1. 導入時の注意事項	10
2.3.2. 実行時の注意事項	10
2.3.3. 動作環境	10
2.3.4. DFM Studio Inspectorのインストール	11
2.3.5. DFM Studio Inspectorのサイレントインストール	14
2.4. ASFALIS Model Viewerの導入	15
2.4.1. 導入時の注意事項	15
2.4.2. 実行時の注意事項	15
2.4.3. 動作環境	15
2.4.4. ASFALIS Model Viewerのインストール	16
2.4.5. ASFALIS Model Viewerのサイレントインストール	19
3. ASFALIS TransServerを利用する場合	20
3.1. ASFALIS Slave Nodeの導入	20
3.2. ASFALIS TransServerの導入	23
3.3. ASFALIS TransServerの設定	24
3.4. DFM Studio Inspectorの導入	26
3.4.1. 導入時の注意事項	26
3.4.2. 実行時の注意事項	26
3.4.3. 動作環境	26
3.4.4. DFM Studio Inspectorのインストール	27
3.4.5. DFM Studio Inspectorのサイレントインストール	30
3.5. ASFALIS Model Viewerの導入	31
3.5.1. 導入時の注意事項	31
3.5.2. 実行時の注意事項	31
3.5.3. 動作環境	31

3.5.4. ASFALIS Model Viewerのインストール .....	32
3.5.5. ASFALIS Model Viewerのサイレントインストール .....	35

# 1. はじめに

本ドキュメントでは、DFM Studioを利用するための製品群のインストール手順について説明します。DFM Studioを利用するために必要な各製品のインストーラーは、製品ごとに提供しています。想定している使用方法、所有されているライセンス、負荷の分散等を考慮して、いずれの製品をどのコンピューターにインストールするかを決定してください。

## 1.1. インストール対象製品と実行対象インストーラー

各製品のインストールに必要なファイルと関連するドキュメントは以下のとおりです。

表 1. インストールに必要なファイルと参照ドキュメント

インストール対象製品	インストール用のファイル	関連するドキュメント
Sentinel RMS License Manager	license_server_for_dfmstudio_ver##.zip	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">1.2, “Sentinel RMS License Managerのインストール”</a></li><li>• Sentinel RMS License Managerセッ トアップ&amp;クイックスタートガイド<ul style="list-style-type: none"><li>◦ base\license_server\document 内</li></ul></li></ul>
DFM Studioパラメーターファイル設定ツール	dfmstudio_ver##_inifiletool.zip	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">2.2, “DFM Studioパラメーターファイルの準備と配置”</a></li><li>• DFM Studioパラメーターファイル設定ツール（管理者向け）操作ガイド<ul style="list-style-type: none"><li>◦ base\util\paramset 内</li></ul></li></ul>
DFM Studio 用 ASFALIS SmartLauncher	smartLauncher_for_dfmstudio_ver##.zip	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">2.1, “ASFALIS SmartLauncherの導入”</a></li><li>• DFM Studio 用 ASFALIS SmartLauncher インストールガイド<ul style="list-style-type: none"><li>◦ base\doc\SmartLauncher 内</li></ul></li></ul>
DFM Studio 用 ASFALIS TransServer	transserver_for_dfmstudio_ver##.zip dfmstudio_ver##_scenario_check.zip dfmstudio_ver##_scenario_check_report.zip dfmstudio_ver##_scenario_report.zip	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">3.2, “ASFALIS TransServerの導入”</a></li><li>• ASFALIS TransServer インストールガイド<ul style="list-style-type: none"><li>◦ base\doc\TransServer 内</li></ul></li></ul>

インストール対象製品	インストール用のファイル	関連するドキュメント
DFM Studio 用 ASFALIS スレーブノード	slavenode_for_dfmstudio_ver##.zip	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">3.1, “ASFALIS Slave Nodeの導入”</a></li><li>• ASFALIS スレーブノード インストールガイド<ul style="list-style-type: none"><li>◦ base\doc\SlaveNode 内</li></ul></li></ul>
DFM Studio Inspector	dfmstudio_ver##_inspector.zip	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">2.3, “DFM Studio Inspectorの導入”</a> (2.3と3.4は同内容)</li><li>• DFM Studio Inspector インストールガイド (本ドキュメント)</li></ul>
DFM Studio 用 Model Viewer	modelviewer_for_dfmstudio_ver##_zip	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">2.4, “ASFALIS Model Viewerの導入”</a> (2.4と3.5は同内容)</li><li>• DFM Studio Inspector インストールガイド (本ドキュメント)</li></ul>

## 1.2. Sentinel RMS License Manager のインストール

DFM Studioを構成する各製品は、Thales 社製の Sentinel RMS License Manager によりライセンス管理されます。

1. license\_server\_for\_dfmstudio\_ver##.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 以下のインストーラーを実行して、Sentinel RMS License Manager を導入します。  
導入手順の詳細は、別冊 "Sentinel RMS License Manager セットアップ&クイックスタートガイド" を参照してください。
  - [Sentinel RMS License Manager インストーラー]  
license\_server\_for\_dfmstudio\_ver##\installer\setup.exe
  - [Sentinel RMS License Manager セットアップ&クイックスタートガイド]  
license\_server\_for\_dfmstudio\_ver##\document\LicenseServer\_QuickStartGuide\_jp.pdf



Sentinel RMS License Manager は、DFM Studio を構成する各製品をインストールするコンピューターと同じコンピューターにインストールすることも、別のコンピューターにインストールすることも可能です。

別のコンピューターにインストールする場合には、そのコンピューターとDFM Studio を構成する各製品がインストールされるコンピューターの間で通信ができるように設定してください。

また Sentinel RMS License Manager は対象となる環境で 1 台のコンピューターにだけインストールすればよく、DFM Studio を構成する各製品をインストールするすべてのコンピューターにインストールする必要はありません。

## 2. ASFALIS SmartLauncherを利用する場合

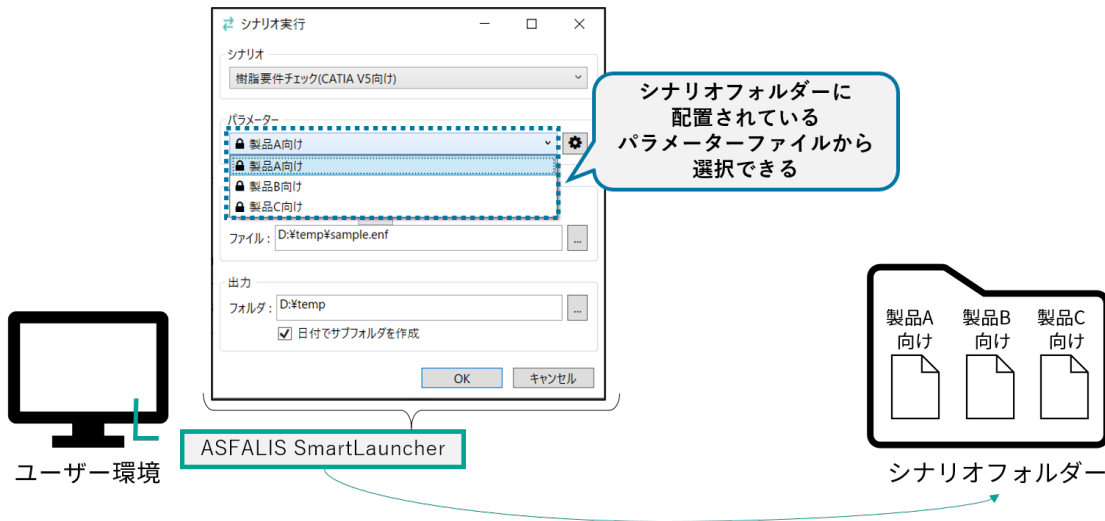
本章では、ASFALIS SmartLauncherを利用して、DFM Studioの検証実行環境を導入する手順について説明します。

### 2.1. ASFALIS SmartLauncherの導入

1. smartLauncher\_for\_dfmstudio\_ver##.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 以下のインストーラーを実行して、ASFALIS SmartLauncher を導入します。  
導入手順の詳細は、別冊 "DFM Studio 用 Elysium ASFALIS SmartLauncher インストールガイド" を参照してください。
  - [ASFALIS SmartLauncher インストーラー]  
smartLauncher\_for\_dfmstudio\_ver##\installer\setup.exe
  - [DFM Studio 用 Elysium ASFALIS SmartLauncher インストールガイド]  
smartLauncher\_for\_dfmstudio\_ver##\document\ASFALIS\_SmartLauncher\_for\_DFM\_Studio\_Installation\_Guide\_ja.pdf

## 2.2. DFM Studioパラメーターファイルの準備と配置

ASFALIS SmartLauncherでは、DFM Studioパラメーターファイルを予めシナリオフォルダーに配置しておくことで、定められたパラメーター設定をユーザーに選択させることができます。自社の設計標準に準拠したパラメーターでの検証をユーザーに促したい場合は、次の手順でDFM Studioパラメーターファイルをユーザー環境に展開します。



DFM Studioパラメーターファイルとは、検証時の形状認識や合否判定に用いられる閾値が定められているファイルです。DFM Studioパラメーターファイルを正しく設定することで、自社の設計標準と同等の検証内容をDFM Studioで実現できます。

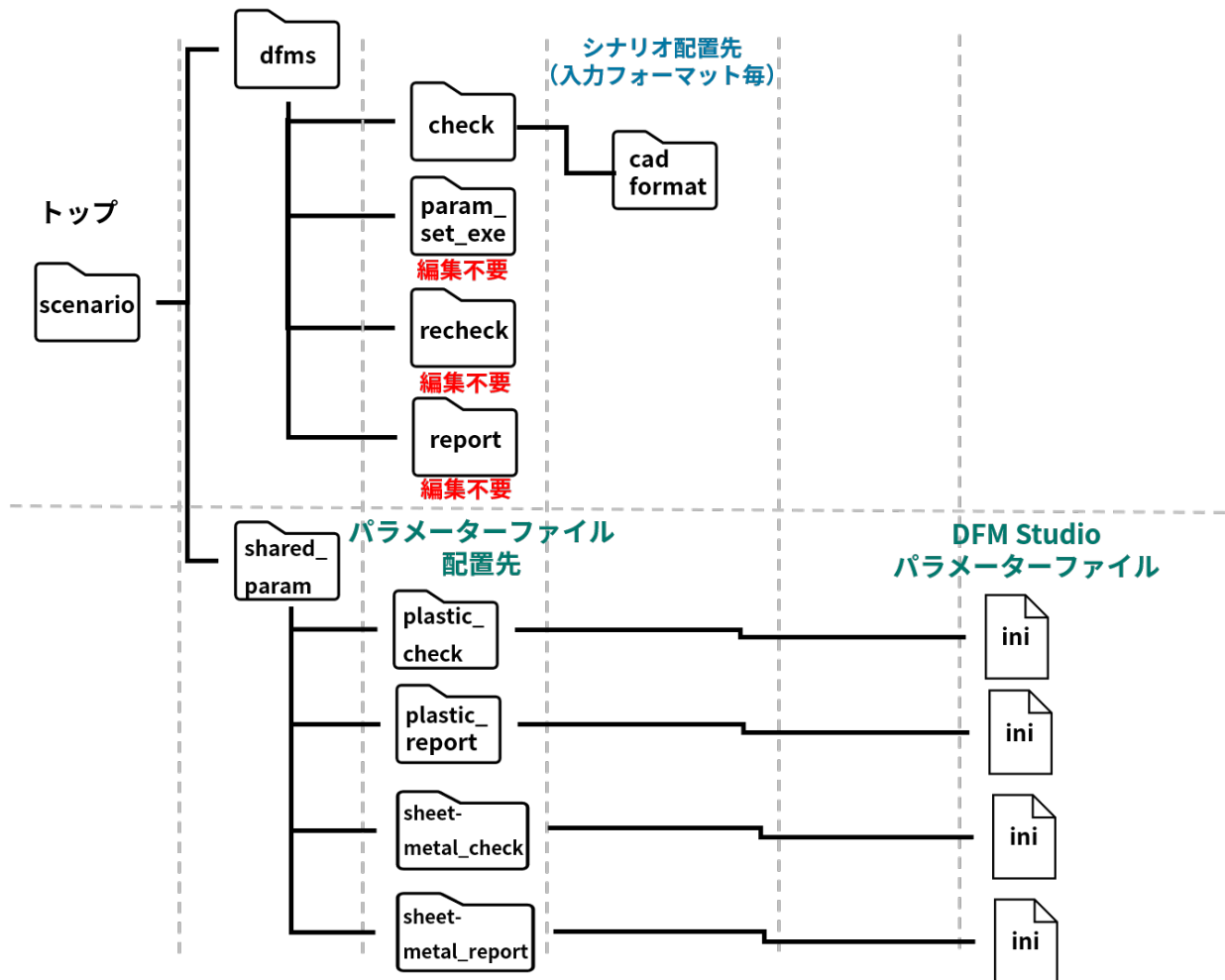


シナリオとは、検証の種類を表す名称です。ユーザーはシナリオを選択することで、入力CADフォーマット、樹脂要件/板金要件検証、レポートあり/なしを指定することができます。例えば、樹脂要件チェック\_レポート付(CATIA V5向け)"というシナリオを選択した場合、CATIA V5データを入力として、樹脂要件検証を実行し、レポートも同時に出力することができます。

1. dfmstudio\_ver##\_inifiletool.zip を作業するPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 自社の設計標準を参照するなどして、DFM Studioパラメーターファイル(.ini)を作成します。
  - DFM Studioパラメーターファイルの作成方法は、別冊 "DFM Studioパラメーターファイル設定ツール（管理者向け）操作ガイド" を参照してください。
    - [樹脂要件検証用 DFM Studioパラメーターファイル設定ツール（管理者向け）]
      - dfmstudio\_ver##\_inifiletool\util\dfms\_param\_set\_plastic\_admin.xlsm
    - [板金要件検証用 DFM Studioパラメーターファイル設定ツール（管理者向け）]
      - dfmstudio\_ver##\_inifiletool\util\dfms\_param\_set\_sheet-metal\_admin.xlsm
    - [DFM Studioパラメーターファイル設定ツール（管理者向け）操作ガイド]
      - dfmstudio\_ver##\_inifiletool\document\DFM\_Studio\_IniFileTool\_Admin\_Operation\_Guide\_ja.pdf



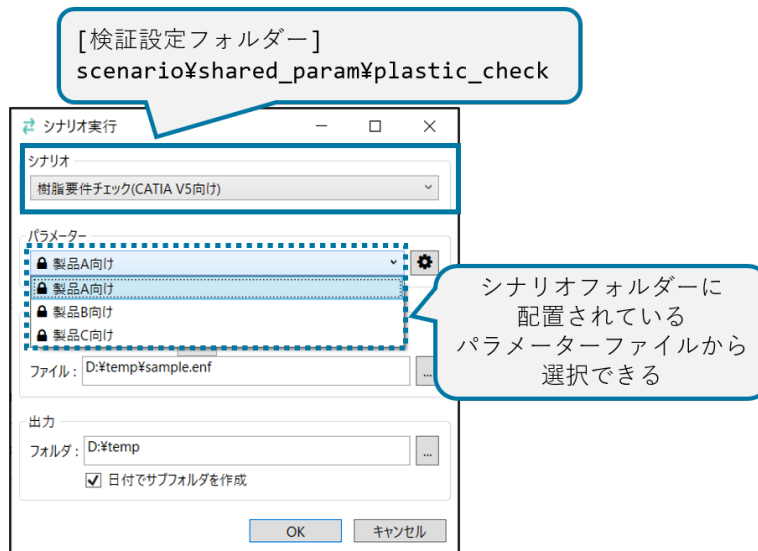
3. 作成したDFM Studioパラメーターファイルをシナリオフォルダーに配置します。シナリオフォルダーの構成は以下になります。



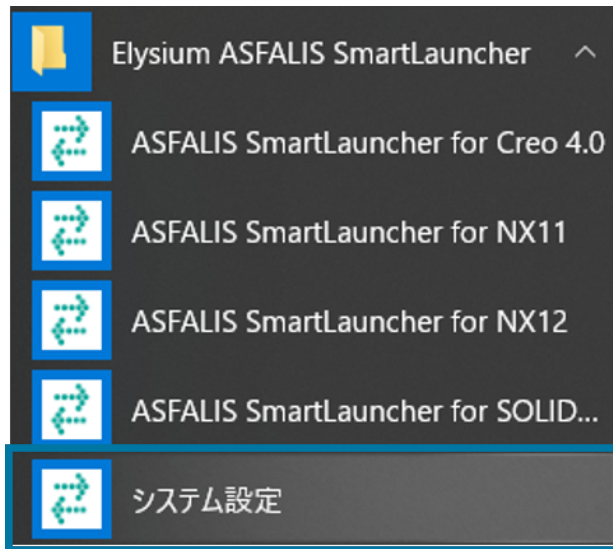
- [シナリオフォルダー(トップ)]
  - dfmstudio\_ver##\_inifiletool\scenario
- [シナリオフォルダー(トップ)\シナリオ]
  - scenario\dfms\check
    - 初回検証実行用のシナリオを配置するフォルダーです。不要な入力CADフォーマットがある場合は、該当するフォルダー(scenario\dfmstudio\check\cad format)を削除してください。削除することで不要なシナリオがユーザーに表示されなくなります。
  - scenario\dfms\param\_set\_exe
    - ASFALIS SmartLauncher上からパラメーターを編集するためのツールが保存されているフォルダーです。編集は不要です。
  - scenario\dfms\recheck
    - 再検証用のシナリオを配置するフォルダーです。編集は不要です。
  - scenario\dfms\report
    - レポート出力用のシナリオを配置するフォルダーです。編集は不要です。

## ◦ [DFM Studioパラメーターファイル]

- shared\_paramフォルダー以下の"plastic\_check"、"plastic\_report"、"sheet-metal\_check"、"sheet-metal\_report"の各フォルダーが、DFM Studioパラメーターファイルを配置するフォルダーです。初期設定では、default.ini等が配置されています。
- 例えば、scenario\shared\_param\plastic\_check 以下に、製品A向け.ini、製品B向け.ini、製品C向け.ini の3つのファイルを配置すると、ユーザーは配置した3つのパラメーターファイルを入力CADフォーマットに関わらず樹脂検証に選択することができます。

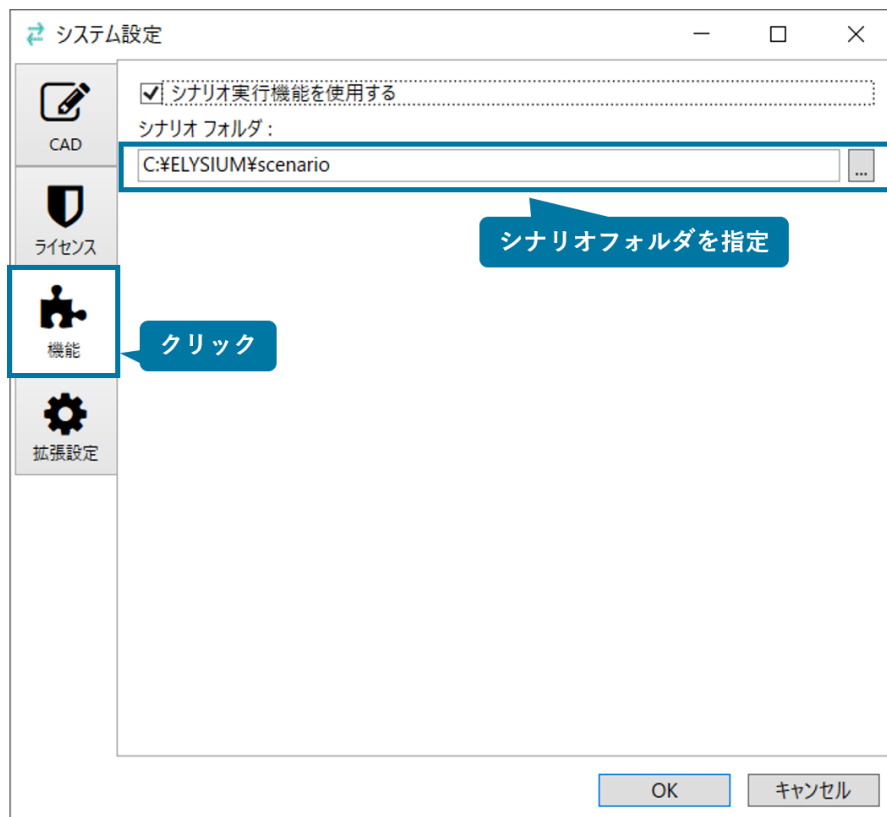


4. パラメーターファイルを複数ユーザー間で共有する場合は、DFM Studioパラメーターファイルを含むシナリオフォルダーを、ユーザーが参照できる共有フォルダーに配置します。
  - [共有フォルダー]\scenario\shared\_param となるように配置します。
5. ASFALIS SmartLauncherの設定から、シナリオフォルダーの設定を前の手順で配置したシナリオフォルダーに変更します。Windowsのスタートメニューから、[Elysium ASFALIS SmartLauncher]-[システム設定]を選択します。



クリック

6. システム設定ダイアログで"機能"を選択します。
7. 機能タブでシナリオフォルダーを指定し、OKを押します。各ユーザーが配置したシナリオフォルダーのDFM Studioパラメーターファイルを参照できるようになります。
  - scenarioフォルダーを指定してください(例: \\share-server\scenario)。



## 2.2.1. DFM Studioパラメーターファイル利用の際の注意点



パラメーターファイルを設定するエクセルマクロ（管理者用、ユーザー用ともに）を利用するためには、エクセル上のデジタル証明書の承認が必要な場合があります。以下の図を参照し、必要に応じてシステム管理者にご確認ください。

**セキュリティの警告**

アクティブ コンテンツには、ウイルスが含まれているか、その他セキュリティ上の危険性がある可能性があります。次のコンテンツが無効になっています:

- マクロ

**すべてのコンテンツを有効にする(C)**  
このドキュメントのアクティブ コンテンツを常に有効にします (信頼済みドキュメントにします)

**詳細オプション(O)**  
有効にするアクティブ コンテンツを選択します。選択したコンテンツは、このセッションのみで有効になります。

**セキュリティの警告 - マクロ**

マクロが無効にされました。これらのマクロには、ウイルスが含まれているか、その他セキュリティ上の危険性がある可能性があります。このファイルの発行元が信頼できない場合は、このコンテンツを有効にしないでください。

**注意:** デジタル署名は有効ですが、その発行元が信頼できる発行元として設定されていません。

**詳細情報**  
ファイルのパス: C:\temp\新しいフォルダー\dfm\_report\_template.xlsm

署名者: Elysium Co. Ltd.  
証明書の有効期限: 2021/05/13  
証明書の発行元: Symantec Class 3 SHA256 Code Signing CA  
[署名の詳細を表示](#)

☐ 不明なコンテンツから保護する (推奨)(D)  
☐ このセッションのコンテンツを有効にする(E)  
☒ この発行元のドキュメントをすべて信頼する(I)

**トラスト センター**

信頼できる発行元	信頼できる場所	信頼できるドキュメント	信頼できるアドイン	アドイン	ActiveX の設定	マクロの設定
信頼できる発行元	発行元	発行元	有効期限			
Logitech, Inc.	DigCert SHA2 Assured ID Code Signing CA	2022/08/02				
Elysium Co. Ltd.	Symantec Class 3 SHA256 Code Signing CA	2021/05/13				
Quet, Inc.	DigCert EV Code Signing CA (SHA2)	2023/01/10				
Brother Industries, Ltd.	VeriSign Class 3 Code Signing 2010 CA	2015/05/11				
	Code Signing 2009-2 CA	2013/03/05				

削除の際は、Excelを管理者権限で起動

## 2.3. DFM Studio Inspectorの導入

1. dfmstudio\_ver##\_inspector.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 以下のインストーラーを実行して、DFM Studio Inspector(以下、Inspectorと呼びます)を導入します。

- [DFM Studio Inspector インストーラー]  
dfmstudio\_ver##\_inspector\installer\DfmStudioInspector\setup.exe

### 2.3.1. 導入時の注意事項

インストールは Administrator 権限のあるユーザーで行ってください。

### 2.3.2. 実行時の注意事項

Inspector実行時には、以下のフォルダーのアクセス権限が必要です。

- %TMP%、%TEMP%、%APPDATA%（変更権限）
- ファイル出力フォルダー（変更権限）

### 2.3.3. 動作環境

CPU	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）が稼働可能なCPU
OS	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）
メモリー	4GB 以上(推奨 8GB)
ストレージ	500MB以上の空き容量
ディスプレイ	1280×1024ドット以上表示可能なディスプレイ， ダブルバッファーに対応したOpenGLビデオボード（*2）

(\*1) Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

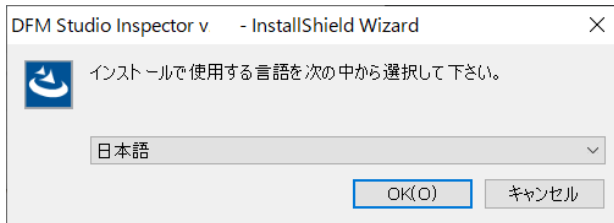
(\*2) OpenGL は米国 Hewlett Packard Enterprise社の登録商標です。

## 2.3.4. DFM Studio Inspectorのインストール

### 1. インストーラーの起動

- dfmstudio\_ver##\_inspector\installer\setup.exe を実行します。

### 2. セットアップ言語の選択

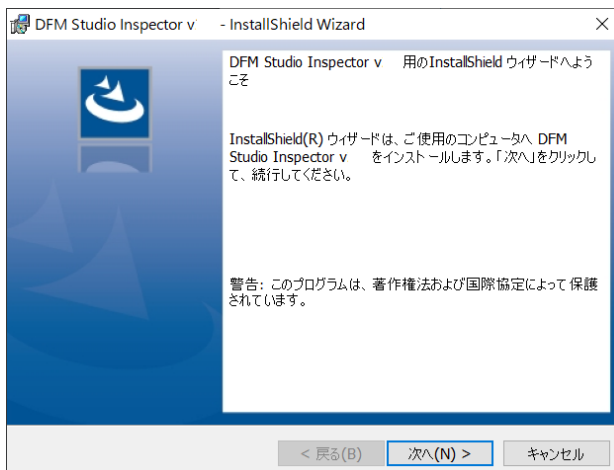


- 日本語を選択し、「OK」を選択します。

### 3. セットアップ前提条件

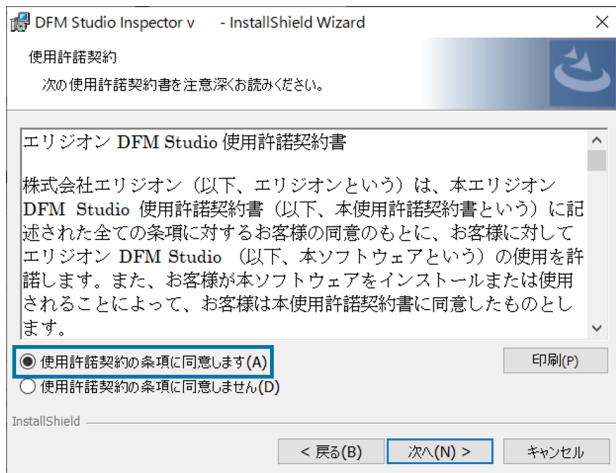
- ランタイムのインストールを促すダイアログが表示された場合は「インストール」を選択します。
- 前提条件が揃っている場合、このダイアログは表示されません。

### 4. Inspector のセットアップ



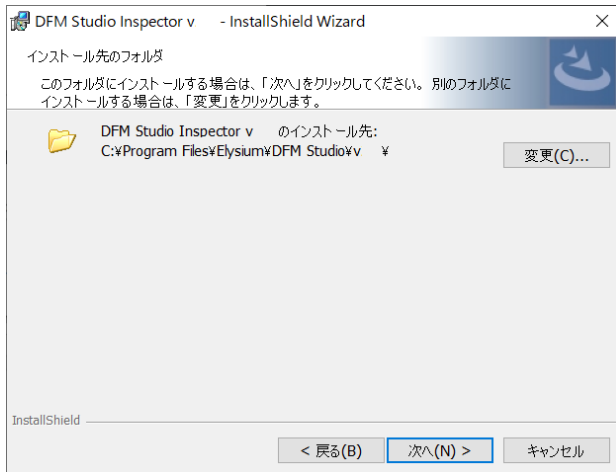
- 「次へ」を選択します。

### 5. 使用許諾契約



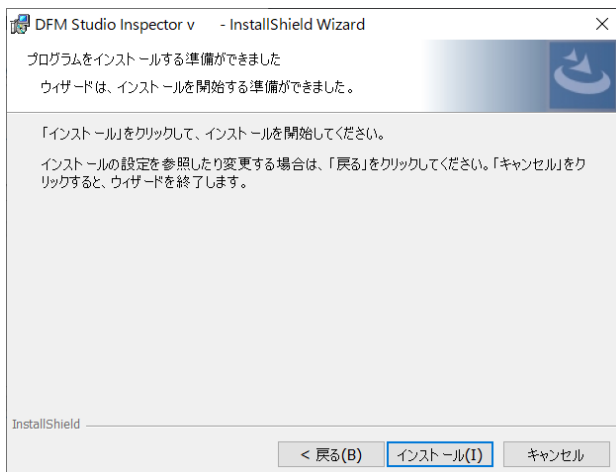
- 。 契約内容を確認後、「次へ」を選択します。

## 6. インストール先の選択



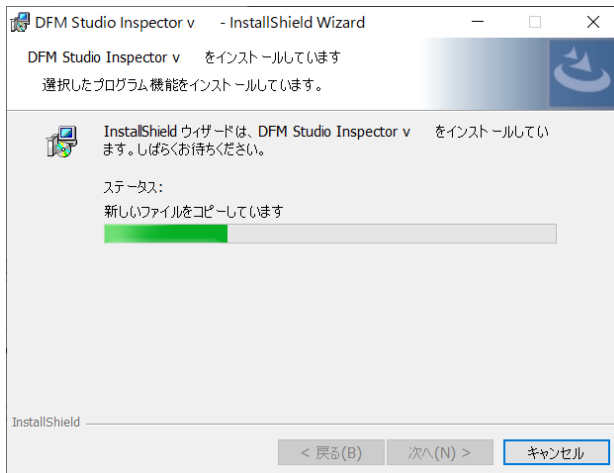
- 。 インストール先フォルダーを指定し、「次へ」を選択します。

## 7. インストールの確認

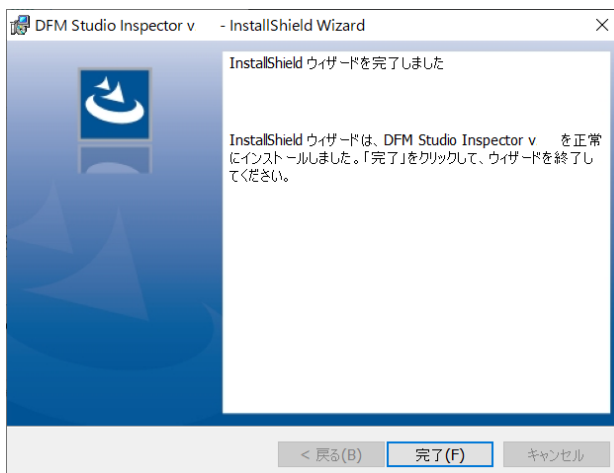


- 。 「インストール」を選択します。

## 8. インストールの実行



## 9. インストールの完了



- 。 「完了」を選択して、インストールを終了します。



## 2.3.5. DFM Studio Inspectorのサイレントインストール

サイレントインストールでは、インストーラーのGUI 操作を行うことなく製品を導入できます。複数の PC へのインストールを行う際などに便利な機能です。

### 1. サイレントインストール

- 。コマンドにて Inspector の新規導入やアップグレードを行います。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

```
D:\share\installer\setup.exe /s  
  
/v"/l* "^"C:\temp\install.log"^" INSTALLDIR="^"C:\Program Files\Elysium\DFM  
Studio\v"^" /qn"
```

### 2. サイレントアンインストール

- 。コマンドにてサイレントアンインストールを行う手順です。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

```
D:\share\installer\setup.exe /s /x /v"/l* "^"C:\temp\uninstall.log"^" /qn"
```

### 3. コマンドライン引数

- 。サイレントインストールを実行する際にインストーラー (setup.exe) に渡すコマンドライン引数の一覧です。

コマンド引数	説明
/s	インストールやアンインストールをサイレントモードで実行します。
/x	アンインストールを実行します。設定しない場合はインストールが実行されます。
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt; &lt;引数2&gt; ..." という形式で以下の引数を指定します。（Msiexecに引数を渡す）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• /qn : インストール時にダイアログを表示しません。</li><li>• /qn+ : インストール完了時にダイアログを表示します。</li><li>• /l* "\&lt;ログファイル&gt;" : ログファイルのパスを指定します(/l*とファイル名の間に半角スペースが必要)。</li><li>• INSTALLDIR="\&lt;インストールフォルダー&gt;" : インストール先のフォルダーを指定します(インストール時のみ指定が必要)。</li></ul>

## 2.4. ASFALIS Model Viewerの導入

1. modelviewer\_for\_dfmstudio\_ver##.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 以下のインストーラーを実行して、ASFALIS Model Viewer(以下、Model Viewerと呼びます。)を導入します。
  - [Model Viewer インストーラー]  
modelviewer\_for\_dfmstudio\_ver##\installer\ModelViewer\64bit\setup.exe

### 2.4.1. 導入時の注意事項

インストールは Administrator 権限のあるユーザーで行ってください。

### 2.4.2. 実行時の注意事項

Model Viewer実行時には、以下のフォルダーのアクセス権限が必要です。

- %TMP%、%TEMP%、%APPDATA%（変更権限）
- ファイル出力フォルダー（変更権限）

### 2.4.3. 動作環境

CPU	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）が稼働可能なCPU
OS	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）
メモリー	4GB 以上(推奨 8GB)
ストレージ	500MB以上の空き容量
ディスプレイ	1280×1024ドット以上表示可能なディスプレイ， ダブルバッファに対応したOpenGLビデオボード（*2）

(\*1) Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

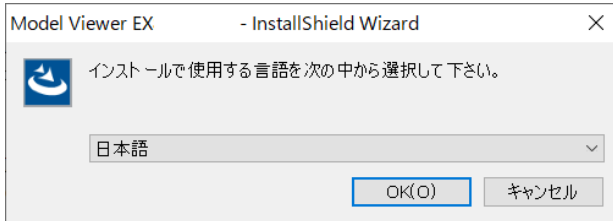
(\*2) OpenGL は米国 Hewlett Packard Enterprise社の登録商標です。

## 2.4.4. ASFALIS Model Viewerのインストール

### 1. インストーラーの起動

- modelviewer\_for\_dfmstudio\_ver##\installer\setup.exe を実行します。

### 2. セットアップ言語の選択

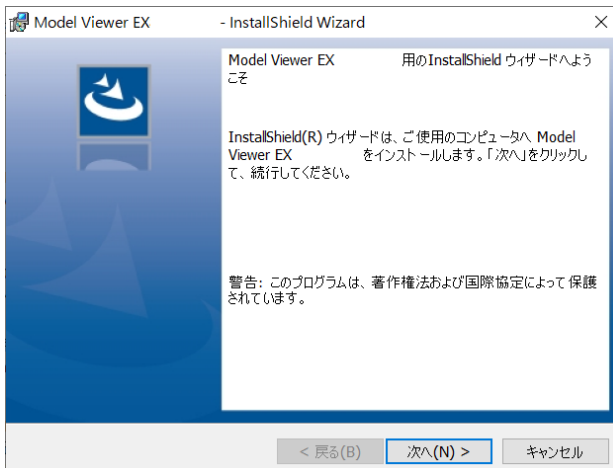


- 日本語を選択し、「OK」を選択します。

### 3. セットアップ前提条件

- ランタイムのインストールを促すダイアログが表示された場合は「インストール」を選択します。
- 前提条件が揃っている場合、このダイアログは表示されません。

### 4. Model Viewer のセットアップ



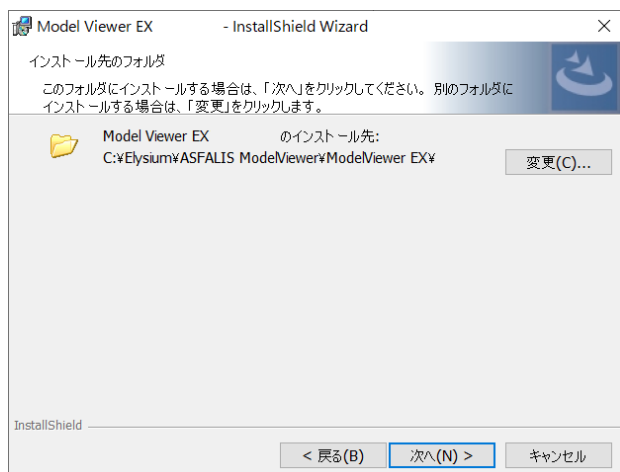
- 「次へ」を選択します。

### 5. 使用許諾契約



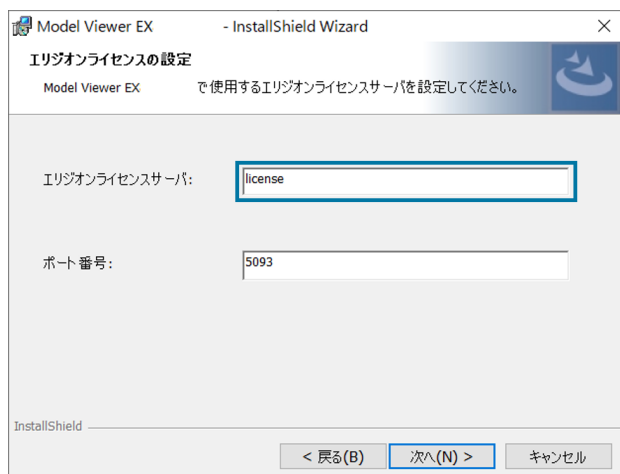
- 。 契約内容を確認後、「次へ」を選択します。

## 6. インストール先の選択



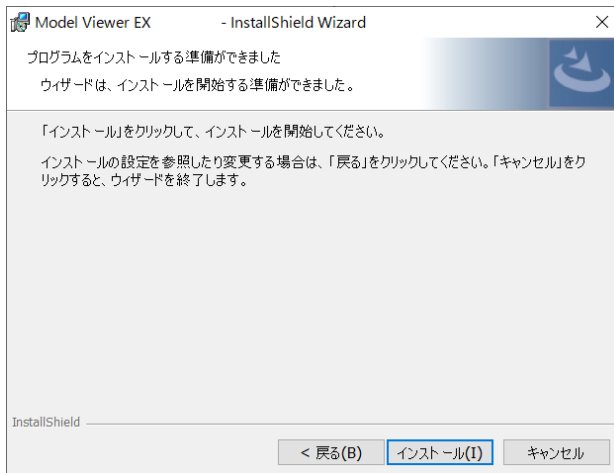
- 。 インストール先フォルダーを指定し、「次へ」を選択します。

## 7. ライセンスサーバーの選択



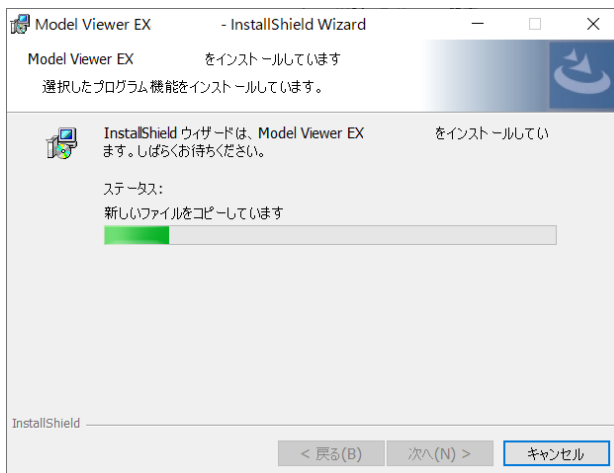
- 。 ライセンスサーバーを指定し、「次へ」を選択します。

## 8. インストールの確認

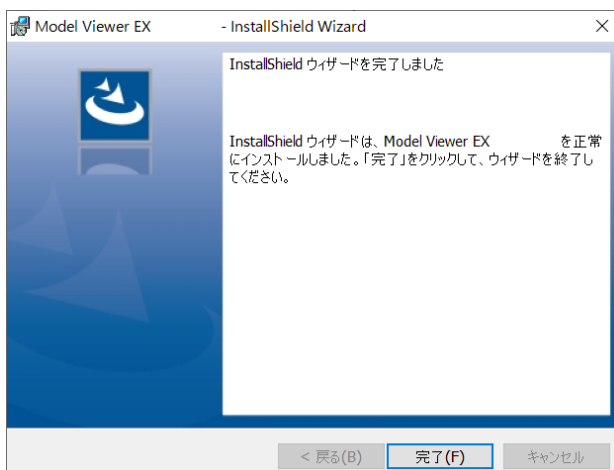


。 「インストール」 を選択します。

## 9. インストールの実行



## 10. インストールの完了



。 「完了」 を選択して、インストールを終了します。

## 2.4.5. ASFALIS Model Viewerのサイレントインストール

サイレントインストールでは、インストーラーのGUI 操作を行うことなく製品を導入できます。複数の PC へのインストールを行う際などに便利な機能です。

### 1. サイレントインストール

- 。コマンドにて Model Viewer の新規導入やアップグレードを行います。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

```
D:\share\installer\setup.exe /s  
  
/v"/l* "^"C:\temp\install.log"^" INSTALLDIR="^"C:\Elysium\ASFALIS  
ModelViewer\ModelViewer EX"^" /qn"
```

### 2. サイレントアンインストール

- 。コマンドにてサイレントアンインストールを行う手順です。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

```
D:\share\installer\setup.exe /s /x /v"/l* "^"C:\temp\uninstall.log"^" /qn"
```

### 3. コマンドライン引数

- 。サイレントインストールを実行する際にインストーラー (setup.exe) に渡すコマンドライン引数の一覧です。

コマンド引数	説明
/s	インストールやアンインストールをサイレントモードで実行します。
/x	アンインストールを実行します。設定しない場合はインストールが実行されます。
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt; &lt;引数2&gt; ..." という形式で以下の引数を指定します。（Msiexecに引数を渡す）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• /qn : インストール時にダイアログを表示しません。</li><li>• /qn+ : インストール完了時にダイアログを表示します。</li><li>• /l* \"&lt;ログファイル&gt;\" : ログファイルのパスを指定します(/l*とファイル名の間に半角スペースが必要)。</li><li>• INSTALLDIR=\"&lt;インストールフォルダー&gt;\" : インストール先のフォルダーを指定します(インストール時のみ指定が必要)。</li></ul>

## 3. ASFALIS TransServerを利用する場合

本章では、ASFALIS TransServerを利用して、DFM Studioの検証実行環境を導入する手順について説明します。

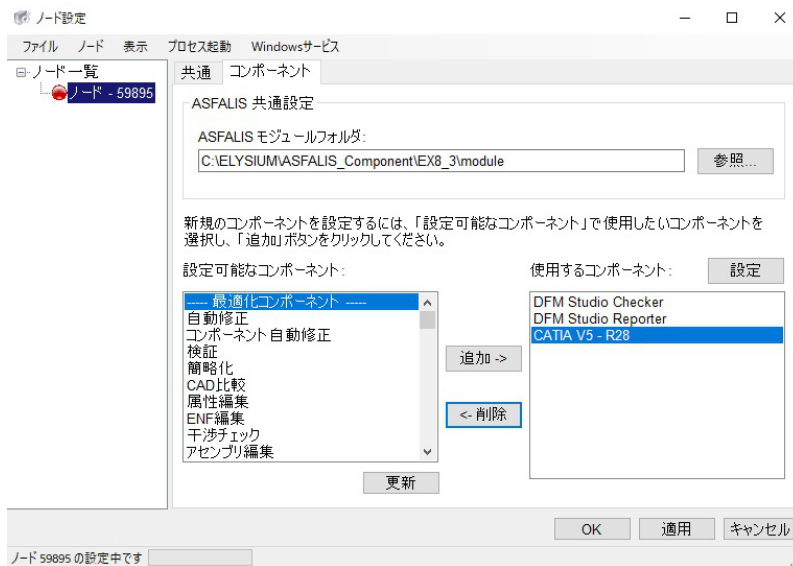
### 3.1. ASFALIS Slave Nodeの導入

ASFALIS TransServerを利用する場合、検証実行用のマシン設定として、Slave Nodeの設定を行う必要があります。

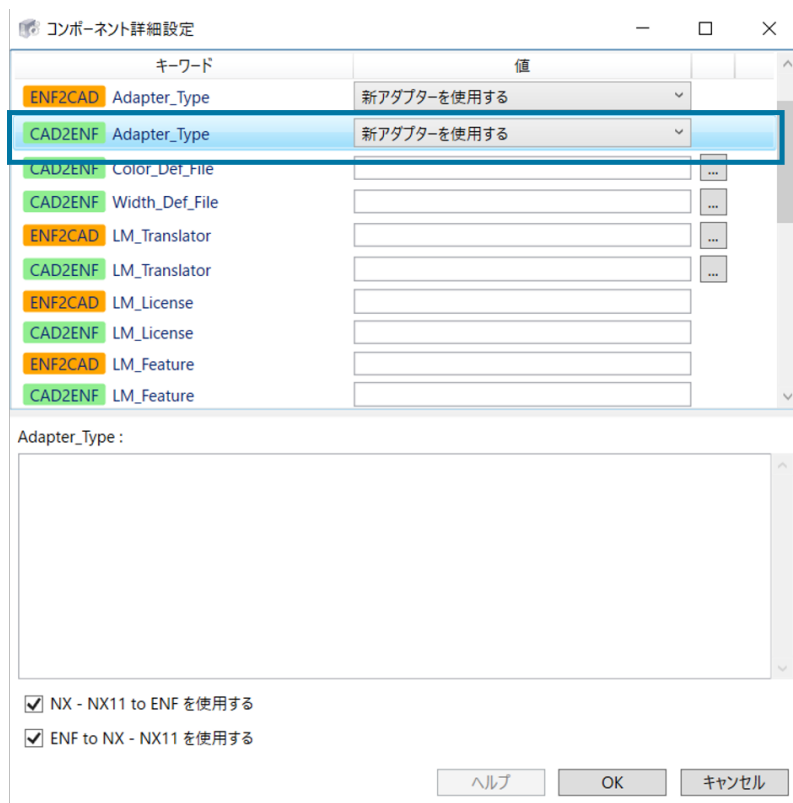
1. slavenode\_for\_dfmstudio\_ver##.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）に配置して、解凍します。
2. 以下のインストーラーを実行して、ASFALIS Slave Node を導入してください。  
導入手順の詳細は、別冊 "ASFALIS スレーブノード インストールガイド" を参照してください。
  - [ASFALIS Slave Node インストーラー]  
slavenode\_for\_dfmstudio\_ver##\installer\setup.exe
  - [ASFALIS スレーブノード インストールガイド]  
slavenode\_for\_dfmstudio\_ver##\document\SlaveNode\_InstallationGuide\_ja.pdf
3. 以下の手順で追加設定を行います。
  - a. DFM Studioモジュールのパッチを適用します。
    - slavenode\_for\_dfmstudio\_ver##\slavenode\_patch\component\_64bit\binフォルダー内のCADfeatureフォルダーとtoolsフォルダーを、<ASFALIS Slave Node導入フォルダー>\moduleフォルダー内の同名フォルダーに上書きします。
      - <ASFALIS Slave Node導入フォルダー>\module
    - slavenode\_for\_dfmstudio\_ver##\slavenode\_patch\SlaveNode\_64bit\configフォルダー内のAsfalConfig\_Setting.xmlを、<ASFALIS Slave Node導入フォルダー>\configフォルダー内の同名ファイルに上書きします。
  - b. <ASFALIS Slave Node導入フォルダー>\module\tools\win 以下に次のフォルダー、ファイルが存在していることを確認してください。
    - dfmstudioフォルダー
    - dscheck.cmd
    - dsreport.cmd
  - c. Windowsの[スタート] - [すべてのプログラム] - [Elysium ASFALIS Component] - [EX\*.\*) - [ノードの設定]にて、コンポーネントを追加してください。  
例
    - "CATIAV5 – R28" → CATIAV5R28用のCADコンポーネント
    - "NX – NX12" → NX12用のCADコンポーネント
    - DFM Studioチェッカーのコンポーネント → DFM Studio Checker

## ■ DFM Studioレポーターのコンポーネント → DFM Studio Reporter

CATIAV5R28用コンポーネントとDFM Studio Checker, DFM Studio Reporterを選択した例



- なお、NXとCreoのCAD2ENFの設定は"新アダプター"である必要があります。コンポーネントの設定で確認し、旧アダプターを使用する設定になっていた場合は変更してください。



### 4. ASFALISスレーブノードを起動してください。

#### 。 起動/全て起動

- ASFALISスレーブノードの起動・停止、コンポーネントの追加の詳細については、ASFALIS スレーブノード インストールガイド(SlaveNode\_InstallationGuide\_ja.pdf)



を参照してください。

## 3.2. ASFALIS TransServerの導入

1. transserver\_for\_dfmstudio\_ver##.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）に配置して、解凍します。
2. 以下のインストーラーを実行して、ASFALIS TransServer を導入してください。  
導入手順の詳細は、別冊 "ASFALIS TransServer インストールガイド" を参照してください。
  - [ASFALIS TransServer インストーラー]  
transserver\_for\_dfmstudio\_ver##\installer\setup.exe
  - [ASFALIS TransServer インストールガイド]  
transserver\_for\_dfmstudio\_ver##\document\TransServerInstallationGuide\_ja.pdf

### 3.3. ASFALIS TransServerの設定

- ASFALIS TransServerを起動します。
  - ASFALIS TransServerの起動については、ASFALIS TransServer インストールガイド (TransServerInstallationGuide\_ja.pdf)の「3. 起動手順」を参照してください。
- ASFALIS TransServerにログイン後、管理者機能 / サービスモニター にてノードの設定を行います。
  - 「編集」ボタンを選択し、ホスト欄にスレーブノードのマシン名、ポート欄にコンポーネントが設定されたポート番号（59859など）を記入し、「保存」ボタンを選択します。
- ASFALIS TransServerの管理者機能 / コンポーネント管理 より、dscheckとdsreportを有効化してください。



- ASFALIS TransServerの 管理者機能 / シナリオ管理 より、ATSシナリオファイル (transserver\_for\_dfmstudio\_ver##\dfmstudio\_ver##\_scenario\_check.zip、transserver\_for\_dfmstudio\_ver##\dfmstudio\_ver##\_scenario\_check\_report.zip、またはtransserver\_for\_dfmstudio\_ver##\dfmstudio\_ver##\_scenario\_report.zip) をインポートします。zip形式のままインポートしてください。
  - transserver\_for\_dfmstudio\_ver##\dfmstudio\_ver##\_scenario\_check.zipは、検証のみを実行するシナリオが含まれています。
  - transserver\_for\_dfmstudio\_ver##\dfmstudio\_ver##\_scenario\_check\_report.zipは、検証およびレポート出力を実行するシナリオが含まれています。
  - transserver\_for\_dfmstudio\_ver##\dfmstudio\_ver##\_scenario\_report.zipは、レポート出力のみを実行するシナリオが含まれています。



レポート出力を行うには、DFM Studio Reporterのライセンスが必要です。

- インポート後、シナリオ一覧に下記シナリオが追加されていることを確認してください。

インポートファイル	ASFALIS TransServerへ登録されるシナリオ
dfmstudio_ver##_scenario_check.zip	樹脂要件チェック(CATIA V5向け) 板金要件チェック(CATIA V5向け) 樹脂要件チェック(NX向け) 板金要件チェック(NX向け) 樹脂要件チェック(Creo向け) 板金要件チェック(Creo向け) 樹脂要件チェック(SOLIDWORKS向け) 板金要件チェック(SOLIDWORKS向け) 樹脂要件チェック(ENF向け) 板金要件チェック(ENF向け)
dfmstudio_ver##_scenario_check_report.zip	樹脂要件チェック_レポート付(CATIA V5向け) 板金要件チェック_レポート付(CATIA V5向け) 樹脂要件チェック_レポート付(NX向け) 板金要件チェック_レポート付(NX向け) 樹脂要件チェック_レポート付(Creo向け) 板金要件チェック_レポート付(Creo向け) 樹脂要件チェック_レポート付(SOLIDWORKS向け) 板金要件チェック_レポート付(SOLIDWORKS向け) 樹脂要件チェック_レポート付(ENF向け) 板金要件チェック_レポート付(ENF向け)
dfmstudio_ver##_scenario_report.zip	樹脂要件チェック用レポート出力(自動キャプチャーあり) 樹脂要件チェック用レポート出力(自動キャプチャーなし) 板金要件チェック用レポート出力(自動キャプチャーあり) 板金要件チェック用レポート出力(自動キャプチャーなし)

6. 不要なシナリオがある場合は、無効化してください。

7. 上記のシナリオを用いて、ASFALIS TransServerへジョブ投入を行い、DFM Studio Checker/Reporter の動作確認を行ってください。

- ASFALIS TransServerへのジョブ投入の詳細については、  
「DFM\_Studio\_Quick\_Start\_Guide\_ja.pdf」の「1.1 ASFALIS TransServerを利用する場合の  
検証実行方法」を参照ください。

## 3.4. DFM Studio Inspectorの導入

1. dfmstudio\_ver##\_inspector.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 以下のインストーラーを実行して、DFM Studio Inspector(以下、Inspectorと呼びます)を導入します。

- [DFM Studio Inspector インストーラー]  
dfmstudio\_ver##\_inspector\installer\DfmStudioInspector\setup.exe

### 3.4.1. 導入時の注意事項

インストールは Administrator 権限のあるユーザーで行ってください。

### 3.4.2. 実行時の注意事項

Inspector実行時には、以下のフォルダーのアクセス権限が必要です。

- %TMP%、%TEMP%、%APPDATA%（変更権限）
- ファイル出力フォルダー（変更権限）

### 3.4.3. 動作環境

CPU	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）が稼働可能なCPU
OS	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）
メモリー	4GB 以上(推奨 8GB)
ストレージ	500MB以上の空き容量
ディスプレイ	1280×1024ドット以上表示可能なディスプレイ， ダブルバッファーに対応したOpenGLビデオボード（*2）

(\*1) Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

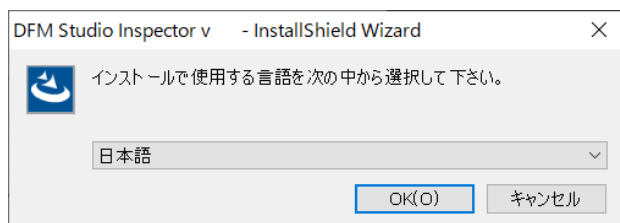
(\*2) OpenGL は米国 Hewlett Packard Enterprise社の登録商標です。

### 3.4.4. DFM Studio Inspectorのインストール

#### 1. インストーラーの起動

- dfmstudio\_ver##\_inspector\installer\setup.exe を実行します。

#### 2. セットアップ言語の選択

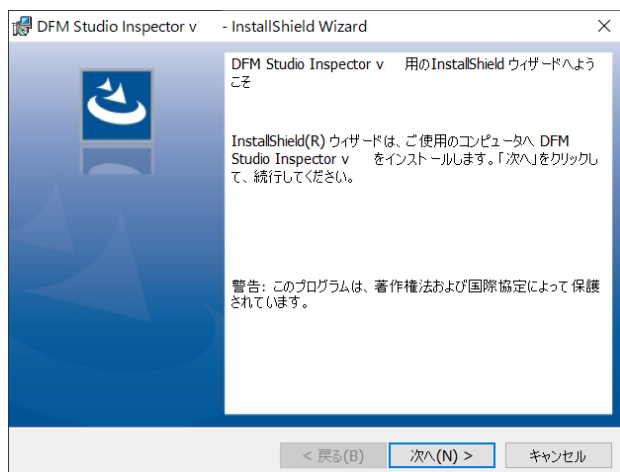


- 日本語を選択し、「OK」を選択します。

#### 3. セットアップ前提条件

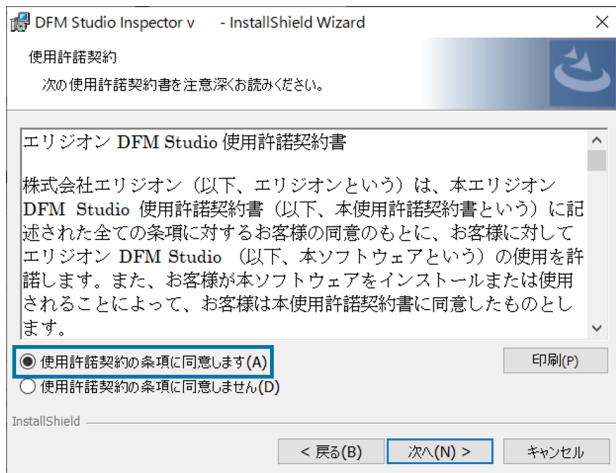
- ランタイムのインストールを促すダイアログが表示された場合は「インストール」を選択します。
- 前提条件が揃っている場合、このダイアログは表示されません。

#### 4. Inspector のセットアップ



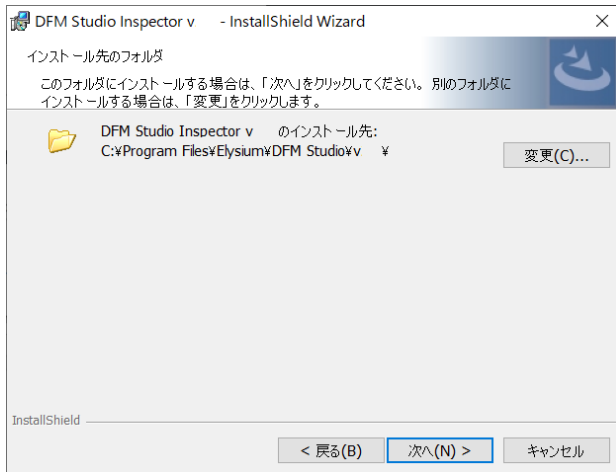
- 「次へ」を選択します。

#### 5. 使用許諾契約



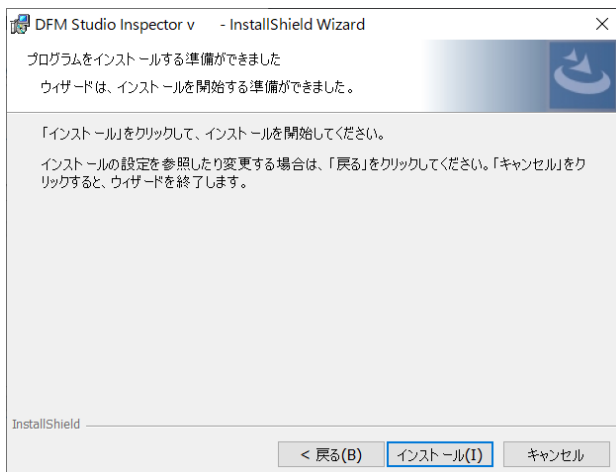
- 。 契約内容を確認後、「次へ」を選択します。

## 6. インストール先の選択



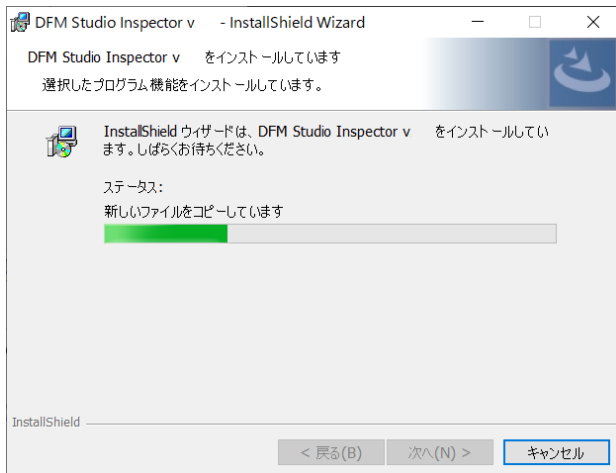
- 。 インストール先フォルダーを指定し、「次へ」を選択します。

## 7. インストールの確認

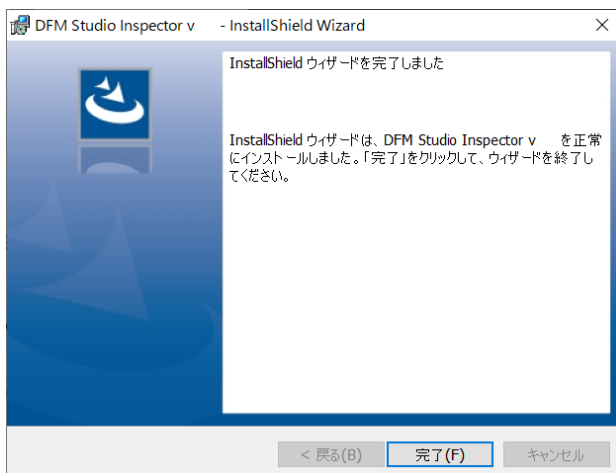


- 。 「インストール」を選択します。

## 8. インストールの実行



## 9. インストールの完了



- 。 「完了」を選択して、インストールを終了します。



### 3.4.5. DFM Studio Inspectorのサイレントインストール

サイレントインストールでは、インストーラーのGUI 操作を行うことなく製品を導入できます。複数の PC へのインストールを行う際などに便利な機能です。

#### 1. サイレントインストール

- 。コマンドにて Inspector の新規導入やアップグレードを行います。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

```
D:\share\installer\setup.exe /s

/v"/l* "^"C:\temp\install.log"^" INSTALLDIR="^"C:\Program Files\Elysium\DFM
Studio\v"^" /qn"
```

#### 2. サイレントアンインストール

- 。コマンドにてサイレントアンインストールを行う手順です。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

```
D:\share\installer\setup.exe /s /x /v"/l* "^"C:\temp\uninstall.log"^" /qn"
```

#### 3. コマンドライン引数

- 。サイレントインストールを実行する際にインストーラー (setup.exe) に渡すコマンドライン引数の一覧です。

コマンド引数	説明
/s	インストールやアンインストールをサイレントモードで実行します。
/x	アンインストールを実行します。設定しない場合はインストールが実行されます。
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt; &lt;引数2&gt; ..." という形式で以下の引数を指定します。（Msiexecに引数を渡す）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• /qn : インストール時にダイアログを表示しません。</li> <li>• /qn+ : インストール完了時にダイアログを表示します。</li> <li>• /l* "\&lt;ログファイル&gt;" : ログファイルのパスを指定します(/l*とファイル名の間に半角スペースが必要)。</li> <li>• INSTALLDIR="\&lt;インストールフォルダー&gt;" : インストール先のフォルダーを指定します(インストール時のみ指定が必要)。</li> </ul>

## 3.5. ASFALIS Model Viewerの導入

1. modelviewer\_for\_dfmstudio\_ver##.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 以下のインストーラーを実行して、ASFALIS Model Viewer(以下、Model Viewerと呼びます。)を導入します。
  - [Model Viewer インストーラー]  
modelviewer\_for\_dfmstudio\_ver##\installer\ModelViewer\64bit\setup.exe

### 3.5.1. 導入時の注意事項

インストールは Administrator 権限のあるユーザーで行ってください。

### 3.5.2. 実行時の注意事項

Model Viewer実行時には、以下のフォルダーのアクセス権限が必要です。

- %TMP%、%TEMP%、%APPDATA%（変更権限）
- ファイル出力フォルダー（変更権限）

### 3.5.3. 動作環境

CPU	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）が稼働可能なCPU
OS	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）
メモリー	4GB 以上(推奨 8GB)
ストレージ	500MB以上の空き容量
ディスプレイ	1280×1024ドット以上表示可能なディスプレイ， ダブルバッファに対応したOpenGLビデオボード（*2）

(\*1) Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

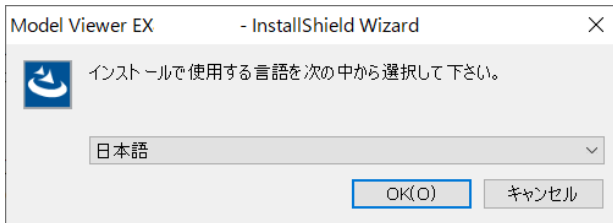
(\*2) OpenGL は米国 Hewlett Packard Enterprise社の登録商標です。

### 3.5.4. ASFALIS Model Viewerのインストール

#### 1. インストーラーの起動

- modelviewer\_for\_dfmstudio\_ver##\installer\setup.exe を実行します。

#### 2. セットアップ言語の選択

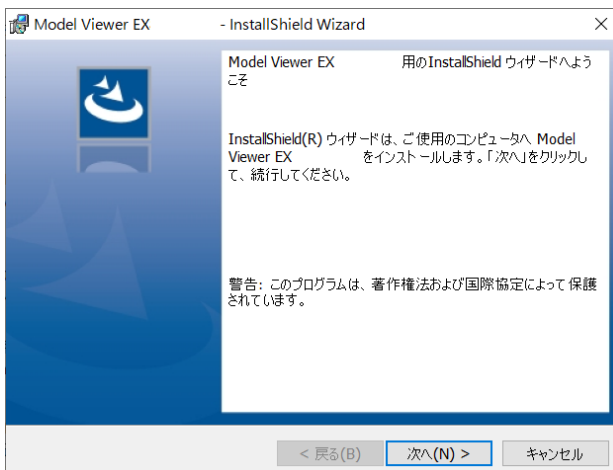


- 日本語を選択し、「OK」を選択します。

#### 3. セットアップ前提条件

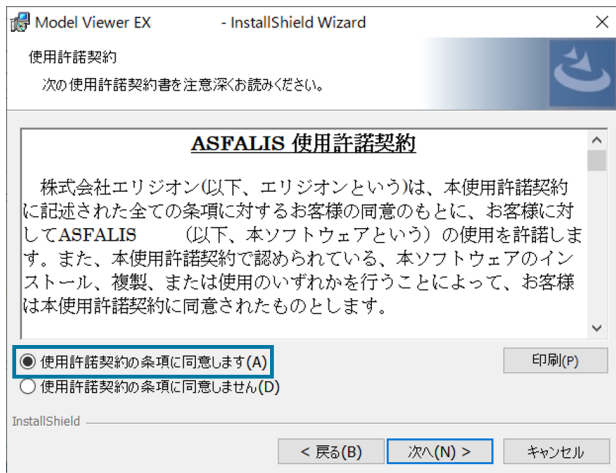
- ランタイムのインストールを促すダイアログが表示された場合は「インストール」を選択します。
- 前提条件が揃っている場合、このダイアログは表示されません。

#### 4. Model Viewer のセットアップ



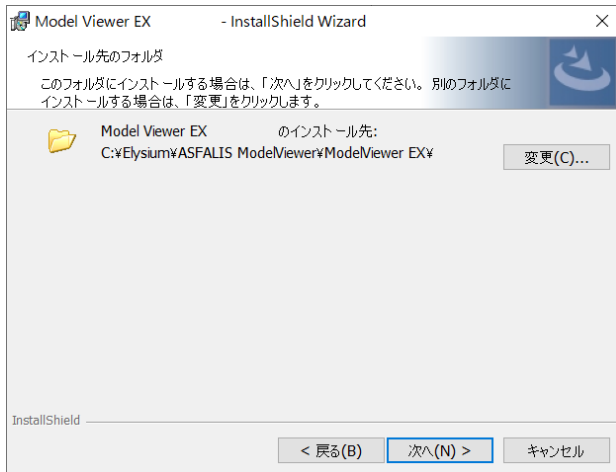
- 「次へ」を選択します。

#### 5. 使用許諾契約



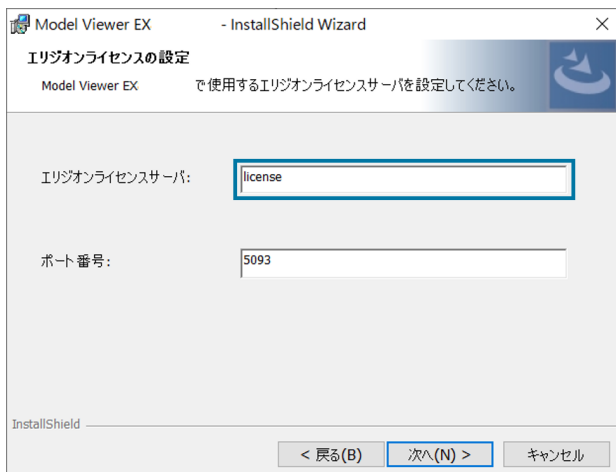
- 。 契約内容を確認後、「次へ」を選択します。

## 6. インストール先の選択



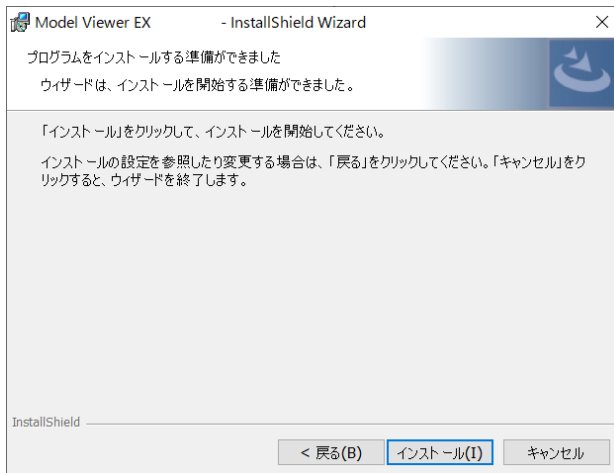
- 。 インストール先フォルダーを指定し、「次へ」を選択します。

## 7. ライセンスサーバーの選択



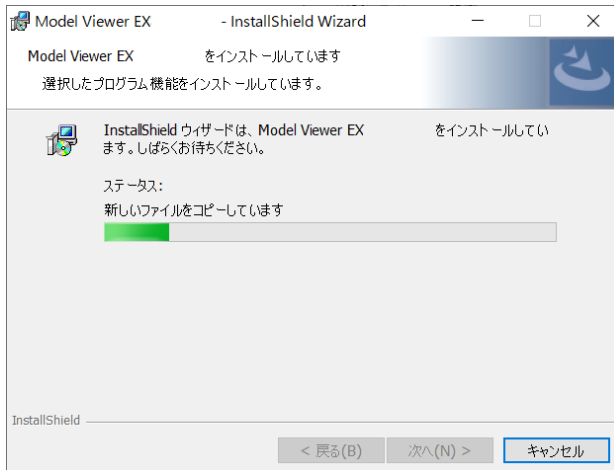
- 。 ライセンスサーバーを指定し、「次へ」を選択します。

## 8. インストールの確認

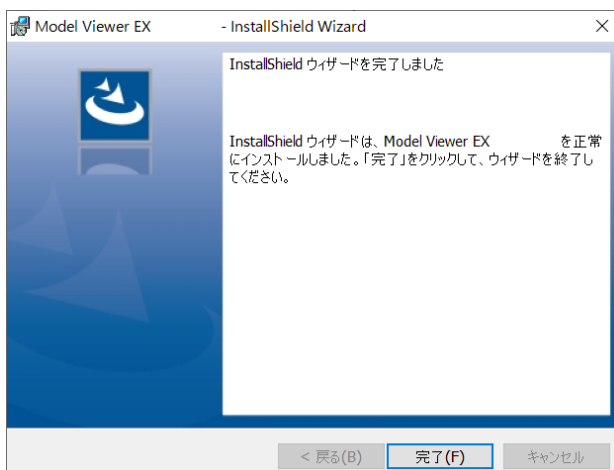


。 「インストール」 を選択します。

## 9. インストールの実行



## 10. インストールの完了



。 「完了」 を選択して、インストールを終了します。

### 3.5.5. ASFALIS Model Viewerのサイレントインストール

サイレントインストールでは、インストーラーのGUI 操作を行うことなく製品を導入できます。複数の PC へのインストールを行う際などに便利な機能です。

#### 1. サイレントインストール

- 。コマンドにて Model Viewer の新規導入やアップグレードを行います。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

```
D:\share\installer\setup.exe /s  
  
/v"/l* "^"C:\temp\install.log"^" INSTALLDIR="^"C:\Elysium\ASFALIS  
ModelViewer\ModelViewer EX"^" /qn"
```

#### 2. サイレントアンインストール

- 。コマンドにてサイレントアンインストールを行う手順です。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

```
D:\share\installer\setup.exe /s /x /v"/l* "^"C:\temp\uninstall.log"^" /qn"
```

#### 3. コマンドライン引数

- 。サイレントインストールを実行する際にインストーラー (setup.exe) に渡すコマンドライン引数の一覧です。

コマンド引数	説明
/s	インストールやアンインストールをサイレントモードで実行します。
/x	アンインストールを実行します。設定しない場合はインストールが実行されます。
/v	<p>/v"&lt;引数1&gt; &lt;引数2&gt; ..." という形式で以下の引数を指定します。（Msiexecに引数を渡す）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• /qn : インストール時にダイアログを表示しません。</li><li>• /qn+ : インストール完了時にダイアログを表示します。</li><li>• /l* "\"&lt;ログファイル&gt;" : ログファイルのパスを指定します(/l*とファイル名の間に半角スペースが必要)。</li><li>• INSTALLDIR="\"&lt;インストールフォルダー&gt;" : インストール先のフォルダーを指定します(インストール時のみ指定が必要)。</li></ul>

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。  
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの  
行為をすることは禁じられています。